

### 3. 重交通国道での供用データ (透水性タイプ)

[資料提供：鹿島道路㈱、住友大阪セメント㈱、小沢コンクリート工業㈱]

ポーラスコンクリート舗装の重交通車道への適用例です。「他産業発生材を活用した重交通に耐えうる全断面透水性舗装構造の構築」を目指した「環境に配慮した道路構造」の検討構造の一つに採用され、試験施工が行われました。



#### 3.1 試験施工概要

施工時期：2000年8月 場所：一般国道155号、愛知県豊田市堤町

規模：幅員4m × 延長90m 設計交通量：3,000台/日・方向以上

#### 3.2 舗装構造



#### 3.3 コンクリートの配合例

項目	ポーラスコンクリート	
	透水性 コンクリート (配合 A)	浸透性 コンクリート (配合 B)
粗骨材最大寸法 (mm)	13	20
目標空隙率 (%)	15以上	10以上
目標透水係数 (cm/sec)	$1 \times 10^{-2}$ 以上	$1 \times 10^{-3}$ 以上
目標カンタプロ損失率 (%)	20以下	-
単位量 (kg/m <sup>3</sup> )	結合材	367
	水	92
	細骨材	147
	粗骨材	1,578

#### 3.4 機能性状

3年経過した供用状況は良好です。現場透水量は、供用3年後まで1000ml/15secを満足しています (ただし、3年経過直後に実施された隣接工事での路床安定処理工の影響で空隙詰まりが発生しています)。密粒度アスファルト舗装に比べて、車両走行騒音は約10dBの低減、路面温度も約10℃の低下が認められています。

